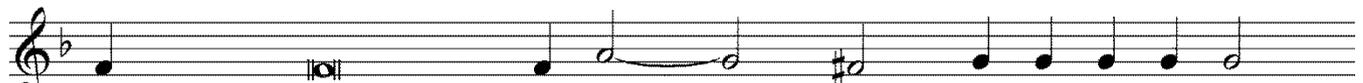


【 復活讃詞 第1調 】

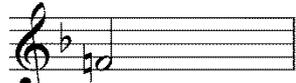
きゅ うせ え いしゅよ、イ ウ デ ヤ の ひ と は か を
 救 世 主 人 墓
 ふ うじ て 、 へ い そ つ なんぢの い さ ぎ よ き み を
 封 兵 卒 爾 潔 軀
 ま も る と き 、 なんぢは み っ か め に ふ く か つ
 守 時 爾 三 日 目 復 活
 し て 、 せ か い に い の ち を た ま え り 。
 世 界 生 命 賜
 ゆ え に て ん ぐ ん は なんぢの い の ち を ほ ど こ す の
 故 天 軍 爾 生 命 施
 しゅ に よ べ り 、 ハ リ ス ト ス よ 、 こ う え い は
 主 呼 光 榮
 なんぢの ふ く か つ に き し 、 こ お う え い は なんぢ
 爾 復 活 歸 し 光 榮 爾
 の く に に き す 、 ひ と り ひ と を い つ く し む
 國 歸 獨 人 慈
 しゅ よ 、 こ う え い は なんぢの お も ん ぱ か り に
 主 光 榮 爾 慮
 き す 。
 歸

【 奇跡者ニコライのトロパリ 第4調 】



 こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き

 光 榮 父 子 と 聖 神 歸

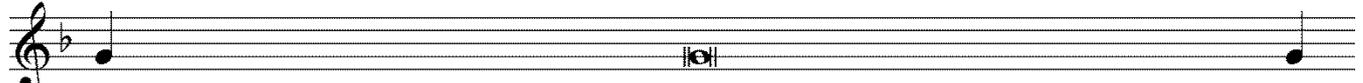


 す、



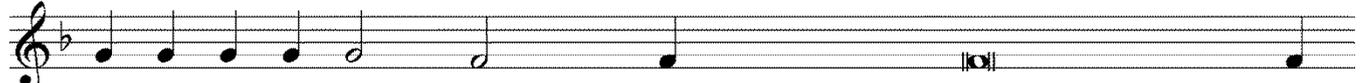
 ぎょう じつ は なんぢ を ぼくぐん の た め え に し ん

 行 實 爾 牧 群 爲 え に 信



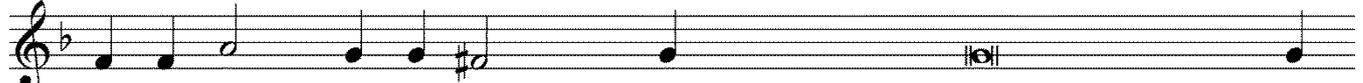
 こう の の り、おんじゆうの か た、せつせいの きょう し

 仰 則 温 柔 模 節 制 教 師



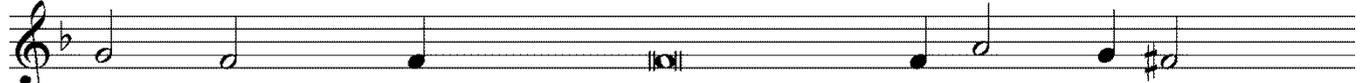
 と あ ら わ せ り、ゆ え に なんぢ は ひ く き を も っ

 顯 故 爾 卑 以



 て た か き を え 得、ま づ し き を も っ て と み を え 得

 高 貧 以 富 得



 た り。せ い せ い し ゃ し ん ぶ ニ コ ラ イ よ、

 成 聖 者 神 父



 ハ リ ス ト ス か み に わ れ ら の た ま し い の す く わ れ ん

 神 我 等 靈 救



 こ と を い の り た ま え。

 祈 給

【 奇跡者ニコライのコンダック 第4調 】



 い ま も い つ も よ よ に、ア ミ ン、

 今 何 時 世 世

せ い なる も の よ、なんぢ は ミ ラ じ ょ う に あ り て
 聖 者 爾 城 在
 せ い なる つ と め を お こ な え り、こ く し ょ
 聖 務 行 克 肖
 う しゃ よ、なんぢ は イ ス ト ス の ふ く い ん に し た が い て、
 者 爾 福 音 遵
 なんぢ の い の ち を なんぢ の ひ と び と の た め に す 捐
 爾 生 命 爾 人 人 爲 捐
 て、つ み な き も の を し よ り す く い た ま え
 罪 者 死 救 給
 り。ゆ え に せ い に せ ら れ て か み の お ん ち ょ う
 故 聖 神 恩 寵
 の お お い なる ひ み つ しゃ と お な れ り。
 大 秘 密 者 爲

司祭) (黙誦： ^{せい} 聖なる神、^{かみ} 聖者の中に^{せいじゃ} 息い、^{うち} セラフィムより^{いこ} 聖三の聲を以て歌頌せられ、
^{せいさん} ヘルヴィムより^{こえ} 讚榮せられ、^{もつ} 悉くの^{かしよう} 天軍より^{さんえい} 伏拝せられ、^{ことごと} 萬物を^{てんぐん} 無より^{ふくはい} 有と^{ばんぶつ} 成り、^む 人を^{ゆう} 爾の^{ひと} 像と^{なんぢ} 肖とに^{ぞう} 依りて^{しょう} 造り、^よ 爾が^{つく} 諸の^{なんぢ} 賜を^{もろもろ} 以て^{たまもの} 之を^{もつ} 飾り、^{これ} 願う^{かざ} 者に^な 智慧と^{ねが} 明悟とを^{もの} 與え、^{ちえ} 罪を^{めいご} 行う^{あた} 者を^{つみ} 棄てずして、^{おこな} 其^{もの} 救の^す 爲に^{そのすくい} 痛悔^{ため} を^{つうかい} 立て、^た 我等^{われらいや} 卑しくして^{ふとう} 不當なる^{なんぢ} 爾の^{しょぼく} 諸僕を、^こ 此の^{とき} 時に^{おい} 於ても、^{なんぢ} 爾が^{せい} 聖な
^{さいだん} る^{こうえい} 祭壇の^{まえ} 光榮の^た 前に^{なんぢ} 立ちて、^{とうぜん} 爾に^{ふくはいさんえい} 當然の^{たてまつ} 伏拝^た 讚榮を^{もの} 奉るに^{もの} 堪うる者と
^{しゅさい} なしし^{なんぢみづか} 主宰よ、^{われらざいにん} 爾親ら^{くち} 我等^{せいさん} 罪人の^{うた} 口よりも^う 聖三の^{なんぢ} 歌を受け、^{じんじ} 爾の^{じんじ} 仁慈を
^{もつ} 以て^{われら} 我等に^{のぞ} 臨み、^{われら} 我等に^{およ} 凡そ^{じゆう} 自由と^{じゆう} 自由ならざる^{つみ} 罪を^{ゆる} 赦し、^わ 我が^{たましい} 靈と^{からだ} 體と

^{せい}を^{せい}に^{われら}し、^{しょうがいぜんこう}我^{もつ}等^{なんぢ}に^{つと}生^え涯^{たま}善^{せい}功^{せい}を^{せい}以^{せい}て^{せい}爾^{せい}に^{せい}務^{せい}む^{せい}る^{せい}を^{せい}得^{せい}せ^{せい}し^{せい}め^{せい}給^{せい}え、^{せい}聖^{せい}なる
^{しょうしんぢよ}生^{こせい}神^{なんぢ}女^{よろこび}と^な古^{しよせいじん}世^{きとう}より^よ爾^よの^よ喜^よを^よ爲^よし^よし^よ諸^よ聖^よ人^よと^よの^よ祈^よ禱^よに^よ依^より^よて^よな^より、)

^{けだしわ}司^{かみ}祭^{なんぢ}) 蓋^{せい}我^{われら}が^{こうえい}神^{なんぢ}よ、^{せい}爾^{せい}は^{せい}聖^{せい}なり、^{われら}我^{なんぢ}等^{ちち}光^こ榮^{せい}を^{せい}爾^{せい}父^{せい}と^{せい}子^{せい}と^{せい}聖^{せい}神^{せい}に^{せい}献^{せい}ず、^{いま}今^{いつ}も^{よよ}何^{よよ}時^{よよ}も^{よよ}世^{よよ}世^{よよ}



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
 聖 神 聖 勇 毅 聖
 じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 者 我 等 憐
 よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
 聖 神 聖 勇 毅 聖
 な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 者 我 等 憐
 め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、
 聖 神 聖 勇 毅
 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐
 れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
 光 榮 父 子 聖 神
 に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。
 歸 今 何 時 世 世

せ い なるじょう せい の も の よ、 わ れ ら を あ わ
 聖 常 生 者 我 等 憐
 れ め よ 。 せ い なる か み、 せ い なる ゆ う
 聖 神 聖 勇
 き、 せ い なるじょう せい の も の よ、 わ れ ら を
 毅 聖 常 生 者 我 等
 あ わ れ め よ 。

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世々に、)

【 提綱 (プロキメン) 主日第1調 及び 聖人の第7調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

なんぢの し んにも
 爾 神

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

しゅ よ、 わ れ ら なんぢを た の む が ご とく、
 主 我 等 爾 頼 如
 な んぢの あ わ れ み を わ れ ら に た れ た ま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え 。

誦經) ^{ぎじん} 義人よ、^{しゅ} 主の^{ため} 爲に ^{よろこ} 喜べ、^{さんえい} 讚^{ぎしゃ} 榮するは ^{かな} 義者に ^あ 適う、

しゅ よ、われらなんぢをたのむがごとく、
主 我 等 爾 頼 如
なんぢのあわれみをわれらにたれたま
爾 憐 我 等 垂 給
え。

誦經) ^{ぎじん} 義人は ^{しゅ} 主の^{ため} 爲に ^{たの} 樂しみて、^{かれ} 彼を ^{たの} 恃まん、

ぎじんはしゅのたのみにたのしみて、かれ
義 人 主 爲 樂 彼
をたのまん。
恃

【 使徒經 (アポストロス) 229 端 エフェス書 5 章 8 節~19 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴェルが ^{じん} エフェス人 ^{たつ} に ^{しょ} 達する ^{よみ} 書の ^よ 讀、

司祭) ^{つつし} 謹 ^き みて ^き 聽くべし、

誦經) ^{けいてい} 兄弟よ、^{ひかり} 光の子の ^{ごと} 如く ^{おこな} 行え。蓋 ^{けだしん} 神の ^み 實は ^{およそ} 凡の ^{じあい} 慈愛と ^{こうぎ} 公義と ^{しんじつ} 眞實とに ^あ 在り。爾

^{らかみ} 等神の ^{よろこ} 悦ぶ ^{ところ} 所の ^{なに} 何なるを ^{つまびらか} 審 ^み に ^{むす} せよ、^{くらやみ} 實を ^{おこない} 結ばざる ^{あづか} 暗昧の ^{なか} 行 ^な に ^な 與る ^な 勿れ、

^{むしろ} 甯 ^{これ} 之を ^せ 責めよ。蓋 ^{けだし} 彼等 ^{ひそか} が ^{おこな} 隱 ^{こと} に ^い 行 ^{または} う ^べ 事は、^{およ} 言うも ^せ 亦 ^{こと} 耻づ ^{こと} 可し。凡 ^{こと} そ ^{こと} 責めらるる ^{こと} 事は

^{ひかり} 光 ^よ に ^{あらわ} 由りて ^{けだし} 顯 ^{あらわ} る、蓋 ^{こと} 凡 ^{ひかり} そ ^{ゆえ} 顯 ^い る ^い 事は ^{もの} 光 ^し なり。故 ^し に ^し 云 ^し える ^し あり、^し 寐 ^し ぬ ^し る ^し 者 ^し 起 ^し き ^し よ、^し 死 ^し

^{ふかつ} より ^{なんぢ} 復 ^{てら} 活 ^{ここ} せよ、^{もつ} ハ ^み リ ^{おこない} ス ^{つつし} 爾 ^{むち} を ^{もの} 照 ^{ごと} さん。是 ^{ごと} を ^{ごと} 以 ^{ごと} て ^{ごと} 視 ^{ごと} よ、^{ごと} 行 ^{ごと} を ^{ごと} 慎 ^{ごと} み ^{ごと} て ^{ごと} 無 ^{ごと} 智 ^{ごと} の ^{ごと} 者 ^{ごと} の ^{ごと} 如 ^{ごと} く

^{すなわち} せ ^{もの} ず、^{もの} 乃 ^{ごと} 智 ^{とき} ある ^{おし} 者 ^ひ の ^あ 如 ^こ く ^{ゆえ} せ ^{しりよ} よ、^{もの} 時 ^{もの} を ^{もの} 惜 ^{もの} む ^{もの} べ ^{もの} し、^{もの} 日 ^{もの} は ^{もの} 惡 ^{もの} し ^{もの} け ^{もの} ら ^{もの} ば ^{もの} な ^{もの} り。是 ^{もの} の ^{もの} 故 ^{もの} に ^{もの} 思 ^{もの} 慮 ^{もの} な ^{もの} き ^{もの} 者 ^{もの}

な なか すなわちかみ むね なに さと またさけ よ なか こ よ ほうとう
と爲る勿れ、乃 神の旨の何なるを覺れ。又 酒に酔う勿れ、此れに由りて放 蕩あり、
すなわちしん み せいえい かしょう ぞくしん しふ もつ くち とな こころ わ
乃 神に満てられよ。聖 詠と歌 頌と屬 神の詩賦とを以て、口に唱え、心 に和して、
しゅ さんび
主を讚美せよ。

(比較用 口語訳)光の子らしく歩きなさい—— 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである—— 主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。 実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。 彼らが隠れて行っていることは、口にするだけでも恥ずかしい事である。 しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。 明らかにされたものは皆、光となるのである。 だから、こう書いてある、「眠っている者よ、起きなさい。 死人のなかから、立ち上がりなさい。 そうすれば、キリストがあなたを照すであろう」。 そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにはなく、賢い者のように歩き、今の時を生かして用いなさい。 今は悪い時代なのである。 だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。 酒に酔ってはいけない。 それは乱行のもとである。 むしろ御霊に満たされて、詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

【 使徒經 (アポストロス) 335 端 エウレイ書 13 章 17 節~21 節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと} 聖使徒パヴエルが^{じん たつ} エウレイ人に^{しよ よみ} 達する書の讀、

司祭) ^{つつし} 謹みて^き 聴くべし、

誦經) ^{けいてい} 兄弟よ、^{なんぢら} 爾等の^{きょうどうし} 教導師に^{したが} 順いて、^{これ ふく} 之に服せよ、^{けだしかれら} 蓋彼等は^{かみ} 神の前に^{まえ} 答を^{こたえ} 爲す

^{もの} べき者として、^{なんぢら} 爾等の^{たましい} 靈の^{ため} 爲に^{けいせい} 徹醒す、^{かれら} 彼等をして^{よろこ} 悦びて^{これ} 之を^{おこな} 行わしめよ、^{たんそく} 歎息

^{おこな} して^{なか} 行わしむる勿れ、^こ 此れ^{なんぢら} 爾等に^{えき} 益なきが^{ゆえ} 故なり。我等の^{われら} 爲に^{ため} 祈禱せよ、^{きとう} 蓋我等は^{けだしわれら} 善

^{りょうしん} き良心を有てるを^{たも} 信ず、^{しん} 一切の事に^{いっさい} 於て^{こと} 善き^{おい} を行わんことを^よ 望めばなり。我が^{おこな} 殊に^{のぞ} 祈

^{とう} 禱を爲すを^な 求むるは、^{すみやか} 速に^{なんぢら} 爾等に^{かえ} 還されん爲なり。願わくは^{ため} 平安の^{ねが} 神、^{へいあん} 永遠の^{かみ} 約

^ち の血に由りて^よ 羊の^{ひつじ} 大なる^{おおい} 牧者たる^{ぼくしゃ} 我等の^{われら} 主^{しゅ} イスス^し ハリストスを^{おこ} 死より^{もの} 起しし者は、

^{そのよろこ} 其^{ところ} 悦ぶ^{なんぢら} 所を^{うち} 爾等の中に^な 爲して、^{そのむね} 其旨^{おこな} を行わん爲に、^{ため} 爾等を^{なんぢら} 凡の^{およそ} 善事に^{ぜんじ} 全^{まつと} う

^よ せんことを、^{ねが} イスス^{こうえい} ハリストスに^{かれ} 由りてなり。願わくは^{むきゆう} 光榮は^よ 彼に^き 無窮の^よ 世に歸せん、

アミン。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あなたがたの指導者たちの言うことを聞きいれて、従いなさい。彼らは、神に言いひらきをすべき者として、あなたがたのたましいのために、目をさましている。彼らが嘆かないで、喜んでこのことをするようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならない。わたしたちのために、祈ってほしい。わたしたちは明らかな良心を持っていると信じており、何事についても、正しく行動しようとして願っている。わたしがあなたがたの所に早く帰れるため、祈ってくれるように、特別にお願いする。永遠の契約の血による羊の大牧者、わたしたちの主イエスを、死人の中から引き上げられた平和の神が、イエス・キリストによって、みこころにかなうことをわたしたちにして下さり、あなたがたが御旨を行うために、すべての良きものを備えて下さるようにこい願う。栄光が、世々限りなく神にあるように、アアメン。

司祭) ^{なんぢ} 爾 ^{へいあん} に平安、

誦經) ^{なんぢ} 爾 ^{しん} の神にも、ア ril イヤ、

【 ア ril イヤ 主日第1調 及び聖人の第2調 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

ア ril イヤ、ア ril イヤ、
ア ril イヤ。

誦經) ^{ねが} 願わくは ^わ 我が ^{ため} 爲に ^{あだ} 仇を ^{かえ} 復し、 ^{われ} 我に ^{しょみん} 諸民を ^{したが} 従わ ^{かみ} しむる ^{さんしょう} 神は讚頌せられん、

ア ril イヤ、ア ril イヤ、
ア ril イヤ。

誦經) ^{なんぢ} 爾 ^{しさいら} の司祭等は ^ぎ 義を衣、 ^{なんぢ} 爾 ^{しょせいじゃ} の諸聖者は ^{よろこ} 悦ばん、

ア ril イヤ、ア ril イヤ、



ア リ ル イ ヤ 。

司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん}人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ}の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ}畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ}を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん}爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ}て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世に、アミン。)

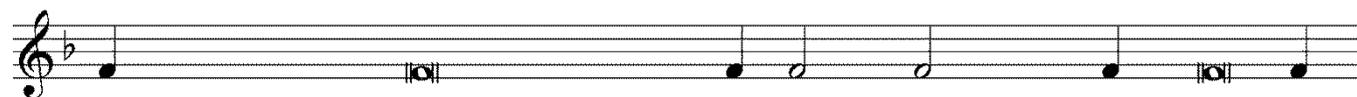
【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書 85 端 17 章 12~19 節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん}睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



なんぢのしんにも。
爾 神

司祭) ^{でん せいふくいんけい よみ}ルカ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



はなんぢにきす。
爾 歸

司祭) ^{つつし き か とき あるむら い らいびょうしゃじゅうにんかれ むか とお た}謹みて聴くべし、彼の時イイスス或村に入るに、癩病者十人彼を迎え、遠く立

^{こえ あ い ふうし われら あわれ かれら み い ゆ}ちて、聲を揚げて曰えり、イイスス夫子よ、我等を憐め。イイスス彼等を視て、曰えり、往

^{おのれ しさいら しめ かれらゆ とききよ そのうちいちにん おのれ いや み かえ}きて、己を司祭等に示せ。彼等往く時潔まれり。其中一人、己の愈されしを見て、返

^{おおごえ もつ かみ さんえい そくか ふふく かんしゃ かれ ひと}りて、大聲を以て神を讚榮し、イイススの足下に俯伏して感謝せり、彼はサマリヤの人

^{い きよ もの じゅうにん あら そのく いづこ あ こ いぞくじん}なり。イイスス曰えり、潔まりし者は十人に非ずや、其九は何處に在るか、此の異族人の

ほか いかん かけ こうえい かみ き またかれ い た ゆ なんぢ しん なんぢ
外、如何ぞ返りて、光榮を神に歸せざる。又彼に謂えり、起ちて往け、爾の信は爾を
すく
救えり。

(比較用 口語訳) イエスがある村にはいられると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめた。たえながら帰ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。イエスは彼にむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。それから、その人に言われた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

【 福音經 (エヴァンゲリオン) ルカ福音書24 端 6 章17~23 節 】

司祭) 彼の時 イイス 平地に立てり、爰に其衆くの門徒、及び衆くの民、イウデヤの四方
エルサリム 井にティルとシドンとの海濱よりして、彼に聽かん爲、且己の病の醫され
ん爲に來りし者、又汚鬼を患うる者ありき、彼等醫されたり。衆民彼に捫らんと欲せ
り、蓋能彼より出でて、衆を醫せり。彼は目を擧げて、其門徒を視て曰えり、神の貧
しき者は 福なり、神の國は 爾等の有なればなり。今飢うる者は 福なり、爾等飽く
を得んとすればなり。今泣く者は 福なり、爾等笑うを得んとすればなり。人の子の爲に
ひとびとなんぢらにく なんぢら た かつのし なんぢら な あ もの す とき なんぢ
人人 爾等を憎み、爾等を絶ち、且 詬り、爾等の名を悪しき者として棄つる時は、爾
らさいわい そのひ よろこ たのし てん なんぢら むくいおお
等 福なり、其日に喜び樂めよ、天には爾等の賞多ければなり。

(比較用 口語訳) その時イエスは平地に立たれたが、大ぜいの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、ツロとシドンの海岸地方などからの大群衆が、教を聞こうとし、また病気をなおしてもらおうとして、そこにきていた。そして汚れた靈に悩まされている者たちも、いやされた。また群衆はイエスにさわろうと努めた。それは力がイエスの内から出て、みんなの者を次々にいやしたからである。そのとき、イエスは目をあげ、弟子たちを見て言われた、「あなたがた貧しい人たちは、さいわいだ。神の国はあなたがたのものである。あなたがたいま飢えている人たちは、さいわいだ。飽き足りようになるからである。あなたがたいま泣いている人たちは、さいわいだ。笑うようになるからである。人々があなたがたを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがたはさいわいだ。その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸

はなんぢにきす。
爾 歸

※聖体礼儀③（金口イオアン聖体礼儀）へ